

鳥取県総合情報誌 vol.145

とっとり Now

Spring 2025

巻頭
特集

歴史秘めた 魅惑と景勝の地

船上山の軌跡をたどる



開運おかげ詣で 因幡と伯耆の神社 後醍醐天皇社 (米子市) 2

巻頭
特集

歴史秘めた魅惑と景勝の地
船上山の軌跡をたどる 4

きらり匠人 継承の技が語る世界 表具師・修復師 小林 隆夫 12

カメラアイ Camera Eye 八十八夜の桃源郷 (米子市淀江町) 14

TOTTORI おもしろ発見手帖 鳥取大学乾燥地研究センター 16

あーとの森 金工 森 保樹 18

ここにこの人 戦場フォトグラファー 青木 弘 19

企業紹介 北溟産業株式会社 22

鳥取のうま味 バリエーション豊富な鶏料理 23

VIVA!トっとりLIFE 輝くJUターン者たち 仏絵師 (江府町) 24

Voice・読者プレゼント・編集後記 26

□「特集」は休みます。



巻頭特集：歴史の舞台となった船上山 (琴浦町)

開運
おかげ
詣で

因幡と伯耆の神社



神社と寺の鐘が並ぶ珍しい光景

寺の境内に祀られる神社 後醍醐天皇社 米子市



後醍醐天皇社の向拝と扁額

神様は神社、仏様は寺。今でこそ、はっきり分かれているが、こうなったのは明治時代はじめの神仏分離令からのこと。それまでは神と仏は同じものとされていた。これを「神仏習合」思想といい、仏教が日本に深く根を下ろした奈良時代から千年以上続いた。

長く同居した神仏をはっきり分けるのは難しく、同じ敷地に神社と寺が並んでいることがある。例えば、清水寺(京都府)の地主神社や、浅草寺(東京都)の浅草神社がそれだ。県内にも會見山安養寺(米子市)の境内に建つ後醍醐天皇社があり、知る人ぞ知る寺の境内に建つ神社で、その名の通り、後醍醐天皇を祀っている。

1332年、隠岐に流される後醍醐天皇を慕って、都からお供をして

きた皇女瓊子内親王が、終に身分がばれ、この地にとどめ置かれた。内親王は都に戻らずこの地で出家し、僧名西月院安養尼となる。この時16歳。そして、19歳で安養寺を開き、ご本尊「阿弥陀如来像」は後醍醐天皇から贈られた念持仏(※)である。

39年、安養尼は24歳の若さで亡くなり、本堂横の墓所に眠っている。現在も遠方から訪れる人が少なくなく、昨春秋に薨去された三笠宮百世子妃殿下も、ご夫妻で訪れている。

文・写真/角田 治

※念持仏は部屋に置いたり、身につけたりして日常的に礼拝する仏像



本堂横にある西月院安養尼(皇女瓊子内親王)の墓(宮内庁管理)



後醍醐天皇から贈られた念持仏の阿弥陀如来像(囲みの中)

ご利益

縁結び、厄難消除、
学業成就

●表紙イラスト●



池平 徹兵
いけひら・てっぺい

1978年福岡県生まれ。島根大学卒。東京オペラシティアートギャラリー-projectN、岡本太郎現代芸術賞展、VOCA展などに出演。

145号表題『終わりと始まりを乗せて』5年間担当してきた表紙絵の最終回。旅の終わりと始まりを乗せて、砂丘のラクダとライオンが歩む未来への一步。これからも今日しかない今日、今しかない今をしっかりと生きて描いていきたい。

キャンバス/油彩

※26頁にあいさつ文あり

「とっとりNOW」が毎月届く
「ふるさと来LOVEとっとり」
会員を募集中!

入会
年会費
無料



Web



プロフィール

つのだ・おさむ グラフィックデザイナー。神仏探訪家。『山陰の神々 古社を訪ねて』(山陰の神々刊行会)など、神社にまつわる書籍の取材・執筆・撮影。

神社情報

社号:後醍醐天皇社 〇米子市福市724
☎0859-26-0562(會見山安養寺)

歴史秘めた

魅惑と

景勝の地

船上山の軌跡をたどる

ごとうらちよう だいせん ぜんじょうざん
琴浦町の南、名峰・大山に連なる船上山は
山岳仏教の一大霊場にして、歴史を揺るがした合戦の舞台。
登山道の随所に苔むした石塔や石垣が残され、
やましる かしどき
山城にこもって戦った末に勝関(※1)を上げた
血気盛んな天皇と武者たちの逸話が地元の人々によって、
今も鮮やかに語り継がれる。
いにしえの人も踏みしめた道をたどり、
森の息吹や遥かな眺めを楽しみながら、心豊かなひとときを。

※1勝関=戦いに勝った時に一斉にあげる声

文/日高 むつみ 写真/菅野 雄一



難攻不落、断崖絶壁の屏風岩

山頂から5分ほど急な坂道を下ると、屏風岩の突端部分「千丈のぞき」に着く。断崖絶壁をのぞくスリルと絶景が楽しめるスポット。麓の船上山ダムも見える

多勢に無勢、地形と知恵で圧勝

日本海に沿って走る国道9号から赤碓で進路を南に変えて県道289号へ。徐々に勾配を上げていくにつれ、船上山の威容が近づいてくる。

大きな屏風を引き回したように連なる断崖「屏風岩」は、まるで山の上に築かれた堅固な砦のよう。切り立った絶壁からは山の紋が水が滝となって流れ落ち、ダイナミックな自然美を見せてくれる。麓に広がる船上山ダムの畔は、春の新緑、秋の紅葉、冬の雪

景色に彩られた船上山を楽しめる県内屈指の景勝地だ。

今でこそ、こうして身近な行楽地として親しまれる船上山だが、実は日本の歴史に深く名を刻む古戦場でもある。時は1333年、鎌倉幕府討幕の嫌疑をかけられ隠岐の島へ配流された後醍醐天皇が、再起を図って島を脱出。伯耆国の海岸（諸説あり）から上陸し、土地の地頭である名和長年の軍勢に奉じられ、この船上山に立てこもった。



屏風岩から流れ落ちる千丈滝。東坂から見上げると、左手が雄滝（写真上）、右手が雌滝（写真下）と呼ばれている

その数150騎に対して、攻め寄せる幕府の軍勢は2000〜3000騎とされており、明らかに劣勢。しかし、天然の要害たる船上山の地勢と、陣頭の指揮をとった名和長年の知略、さらにはにわか起こった暴風雨に助けられ、幕府方は瞬間に敗退。戦いはわずか3日間で雌雄を決し、天皇方の圧勝に終わったと伝えられている。これが歴史に残る「船上山合戦」だ。後醍醐天皇が仮の御所である行宮を設け、討幕の綸旨（※2）を各地に発したこの場所こそ、「建武の新政」の起点なのだ。

琴浦町観光ガイドの岩田弘さん、琴浦町教育委員会の野口良也

さんと一緒に登山道を歩いた。この地で起こったことをまるで昨日のことのように語りながら、歴史の世界へと誘ってくれる。

ブナやミズナラの自然林の中に続く西坂が、天皇方の入山ルートだったこと。つづら折りの細い東坂は天皇が京都へ戻るルートであり、その途中に天皇が喉を潤したと伝わる「金明水」や、籠を止めて休憩し船上山の姿を目に焼き付けた「駕籠立場」があること。山頂に広がる平坦な場所には豊富な湧き水があり、おかげで80日間の長きにわたり行宮を維持できたこと…。

※2 綸旨 天皇の命令によって蔵人が自分の署名で発行する文書



船上山合戦画。屏風岩の突端に立って幕府方の軍勢を迎え討つ武者たちや、眼下の敵に向かって大石を落とそうとする僧兵の姿なども描かれている。写真提供：琴浦町観光協会

町観光ガイドさんらの解説を聞き、歴史に思いをはせながら樹木が生い茂る山道を進んでいく

老朽化により近年、建て替えられた
船上神社の鳥居



屏風岩の突端「千丈のぞき」



後醍醐天皇が休憩したといわれる
「駕籠立場」



鱒返しの滝。東坂登山口に向かう
県道の途中、谷沿いの遊歩道から
登れる場所にある

船上神社と智積寺の歴史が書かれて
いる立て看板。船上山のすべての案内
看板は岩田さんが手書きで作成



一息ついた後、さらに山深い場所へと歩みを進める。道が平らになつた辺りで目についたのが、苔むした石垣と人工的に掘られた溝だ。野口さんが「かつて船上山が大山（大山町）や三徳山（三朝町）と並ぶ山岳仏教の聖地として栄えた時代に、寺域との境界として築かれていたんです」と解説してくれた。よくよく目を凝らせば、熊笹の生い茂る藪の中に倒れた五輪塔や石材が、半分土に埋まるように散らばっていた。さらに、土塁（※3）によって仕切られた寺坊跡らしき平坦な区画も40力所以上発見されている。

そもそも船上山が開かれたのは、平安時代前期だ。『船上山寺内分限記』に、金石寺という寺院が建立されたと記されている。また839年の鑄造で「伯耆国金石寺」の銘が刻まれた梵鐘が現在、福岡県の西光寺で国宝として保存されていることから、梵鐘はもともと船上山に設置されていたとの説も。この金石寺が後醍醐天皇軍の籠城場所であり、奥の院の北側に行宮が設けられたとも伝えられている。

※3土塁は土を盛り上げて築いたとりに

静かな山に眠る古刹の面影

現場を歩きながら当時の細かいエピソードは興味深く、勾配がきつい坂道も気がまぎれる。「あとほんのもう少し」と励まされつつ、なんとか山頂にたどり着いたのは、東坂の登山口から50分ほどだった。

開けた野原の左手に鎮座しているのは、人の背丈を超える巨大な石碑「船上山行宮碑」だ。「祖父が青年だった頃、地元の有志が人力で運び上げたもの。一人ひとりがやっと歩ける細い急坂に足場を組んで引き上げ、ようやく設置した

が、まもなく倒壊し、翌年もう一度同じ作業を繰り返した」と岩田さん。その並々ならぬ熱意には感服するばかりだ。

また碑に刻まれた建立者の姓「高力」は、水を欲した後醍醐天皇のために尽力した村人が「強力」の姓を賜り、それが転化したものといわれており、代々地元を受け継がれているという。天皇を助け、その大願成就の一翼を担った誇りが船上山の全域に、そして麓に里に満ちている。



屏風岩は高さ約100m。約100万年前に形成された柱状節理による溶岩壁が約600mにわたって続いている



山頂に鎮座する「船上山行宮碑」（写真上）。高さは約3.7m。裏には最初の設置後に何らかの理由で倒れた碑がそのまま置かれている（写真下）





咲き乱れる約4000本の多様な桜

さくら祭りと万本桜公園

船上山万本桜公園は、琴浦町が誇るサクラの名所だ。ソメイヨシノからヤマザクラ、遅咲きのヤエザクラまで、多種多様な桜の花が約1カ月の長い期間にわたって競うように花開く。毎年ヤエザクラが咲く4月

下旬には、イベント盛りだくさんの「船上山さくら祭り」を開催。昼間は日ざしが注ぐ芝生の広場で花見を、夕暮れ以降は明かりをともしたぼんぼりの風情と共に夜桜を楽しむ。

問 琴浦町観光協会
所 東伯郡琴浦町別所1030-1
電 0858-55-7811



Web

今も敬われる聖なる場所

その後、金石寺は南北朝の騒乱期に衰退し、室町時代後期の1530年に智積寺が創建される。しかし、それも「毛利と尼子の戦い」をはじめとする戦国時代の争乱や、豊臣秀吉による寺領没収を経て衰退し、智積寺は里に下ることに。山上に残った三所権現社(※4)は、明治時代の神仏分離令によって改称され、現在の船上神社となった。

神社の御本殿は、「船上山史蹟保存会」によって再建されたものだ。そこに記された会員の「顔ぶれ」を見てびっくり。近衛文麿、犬養毅、渋沢栄一など、かの中央政財界のお



野口さん(左から2番め)、岩田さん(中央)ほか、町観光ガイド、町文化財ボランティアのみなさん

歴々がずらり。天皇親政を実現した後醍醐天皇への崇敬の念が強かったことこの表れなのかもしれない。

そんな人の思惑も世の趨勢も今やどこ吹く風、訪れた船上神社はしっかりと神さびた佇まいで、私たちを迎えてくれた。ふと御社殿のそばに目をやると、幾束もの海藻が供えられている。これは毎月、祓い清めのために岩田さんが海に出て刈り取り、その足で船上山行宮碑、船上神社、船上神社奥の院を巡って捧げているものなのだという。今も脈々と受け継がれる神聖な山と人間のつながりに、心があたたかなもので満たされた。

約700年の時を経た歴史の舞台をたどり、タイムトリップしたかのような不思議な感覚に包まれたひととき。眼下に広がる当時の景色に想像を膨らませ、感慨に浸りながら下山した。

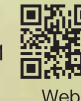
※4三所権現社(智積寺の智照権現(地藏菩薩)、靈像権現(十一面観世音菩薩)、多聞天王(毘沙門天)をまつった社



海からとった海藻を毎月1回、この場所に供える岩田さん

船上神社(写真右)では、毎年4月、7月の例大祭にオオカミの木造を安置した御本殿の扉が開かれ、五穀豊穡を祈願する。写真上は船上神社奥の院

問 琴浦町観光協会
所 東伯郡琴浦町別所1030-1
電 0858-55-7811



Web

老舗のみやげ



【高塚かまぼこ店】

新鮮なスケトウダラのすり身を吟味、伝統の製法で練り上げた蒸しちくわ、赤碕港で水揚げされた新鮮なアゴ(トビウオ)を使った焼きちくわ、北栄町産の砂丘ながいもを包んだかまぼこなど、うま味豊かで弾力があり種類も豊富。店内で揚げたてを頬張れるピリ辛の「クロquette天」や変わり種の「牛骨ラーメン天」などもあり人気。



問 高塚かまぼこ店
所 東伯郡琴浦町八橋162
電 0858-52-2717
営 7時30分～18時
休 元旦のみ



Web



【山本おたふく堂】

明治元年に創業。ふくよかなお多福さんの笑顔と共に思い浮かぶのは、素朴な表情の「ふろしきまんじゅう」。名前の由来は四角い生地に餡をのせ、風呂敷のように包んでいたからという。和三盆の優しく豊かな風味が香る生地と、程よい甘さのこし餡はバランスが良く、飽きがこない。老若男女問わず、今も愛され続ける味だ。



問 山本おたふく堂本店
所 東伯郡琴浦町八橋348
電 0858-53-2345
営 7時～17時(平日)
6時30分～17時(土日祝)
※売り切れ次第閉店
休 無休



Web

明治元年から今も愛され続ける味



表具に宿る美を再生、後世へ



古い作品に新しい和紙で丁寧に裏打ちする小林さん。左は弟の正道さん、奥は娘のさえこさん

花鳥風月が描かれた屏風に衝立、和室を彩る襖絵、端正な墨絵や書の掛け軸。表具は、古くから日本家屋での暮らしに寄り添い、その美でもてなしの心、を伝える調度品だ。しかし、和紙や絹でできていることもあり、破損や汚れが生じやすい。再び愛される品になるよう蘇らせるのが、表具師・修復師だ。「できるだけ元の姿に戻したい」という一念が、小林隆夫さん(81)を突き動かす。

表具師・修復師 小林 隆夫

蔵にしまい込まれて数十年、虫食い穴が何百とあいたものが持ち込まれることも。そんなときは、長年収集してきた和紙のストックが役立つ。あれでもないこれでもない似たものを探し出し、一つ一つ穴を埋める。気の遠くなるような作業の連続だ。だからこそ、「『すごくきれいになった!』と喜んでもらったとき、一番うれしい」と目を細める。1940年に父が創業、20代から家業を手伝いはじめ、2代目として60年以上この道を歩んできた。弟の正道さん、3代目である娘のさえこさんと共に伝統を支える。

生活スタイルの変化に伴い、表具の需要が減ってきたことがさみしい。廃れてほしくない、骨董品店を巡っては屏風を安価で手に入れ修復、コレクションにしている。「2階は屏風でいっぱい。娘に叱られています」と朗らかに笑った。

文/鳥飼 明子 写真/田中 良子



小林さんのコレクションのひとつの屏風。修復によって見事な当時の絵が蘇っている

修復に使う道具の数々。刷毛の種類も多々あり用途によって使い分ける



元の作品の味を損なわないよう、慎重に補彩する

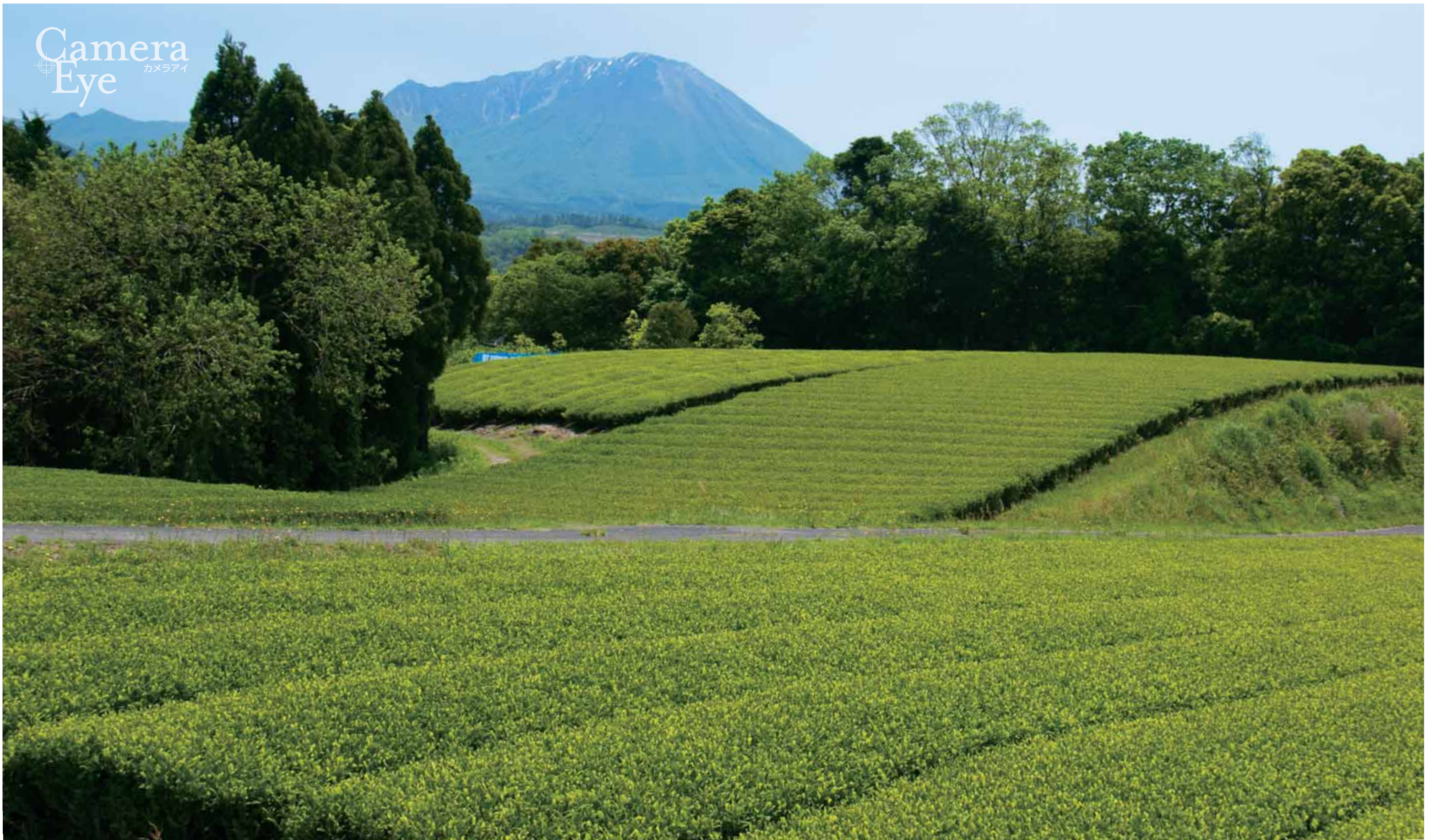
MEMO

修復は、書画が描かれている本紙に裏打ちされた古い和紙を、慎重にはがすことから始まる。汚れを水で洗い流した後、専用の薬品でシミ抜き、そして新しい和紙で裏打ちする。絵の具が剥離した部分の補彩、作品が際立つ表装も表具師の腕の見せどころだ。複雑で繊細な作業に加え、自然乾燥させるため、完成まで約3カ月要するものも。

● 彩霞堂・小林表具店
 ● 鳥取市高住5-6
 ☎ 0857-28-0320
 ● 9:00~18:00
 ● 日曜日、祝日、年末年始、盆



※「きらり匠人〜継承の技が語る世界〜」は今回で終了します



八十八夜の桃源郷

(米子市淀江町)

撮影／枝野久雄 (南部町)

八十八夜を迎えるころ、薄緑の新芽が太陽光にキラキラ反射し、まるで桃源郷の世界が広がる。山陰自動車道の淀江トンネルの上に位置する壺瓶山山頂にある茶畑だ。狭い道路を登っていくと突然、目の前に現れるこの光景に魅せられ、10年近く通い続けている。

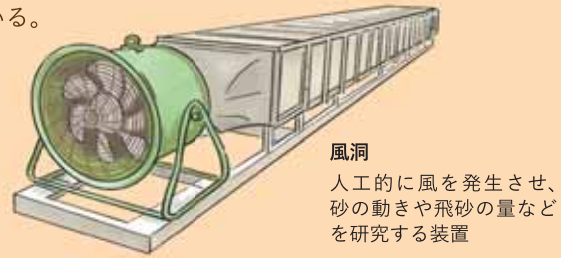
アリドーム実験施設
直径36m、高さ16mのガラス温室。大型のアルミ製の建築物は全国でも珍しい



ナツメヤシ
米国・カリフォルニア州から移植。干し柿のように甘みのある果実が実る

最先端の研究設備と開かれた学びの場

約1平方kmの広大な敷地に、砂丘の砂でできたほ場や乾燥地の気象条件を再現できる設備、黄砂発生をリアルタイムで監視できるシステムなど研究環境が整う。一般公開されている半円形大型温室「アリドーム実験施設」では、乾燥地・亜熱帯乾燥地域に生息する植物展示のほか、風洞、降雨シミュレーター、土壌の塩類化を解明する実験装置も。隣接の「ミニ砂漠博物館」では、研究内容や乾燥地の暮らしなどを、小学生でもわかりやすく紹介している。

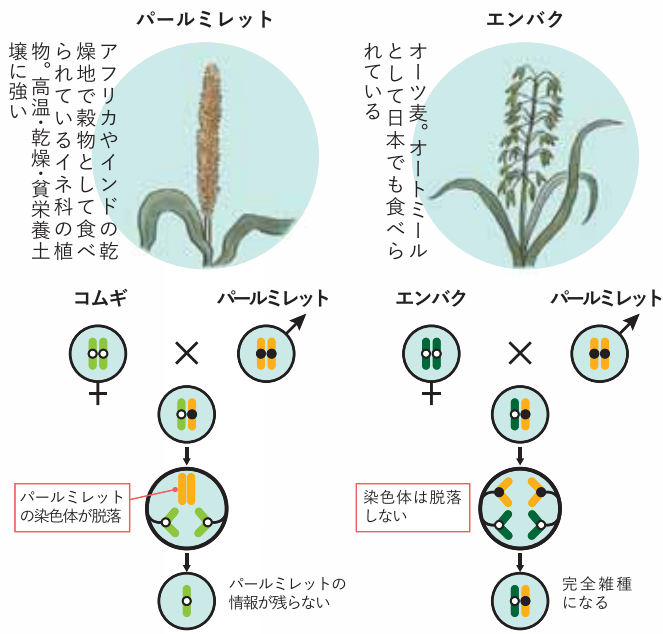


風洞
人工的に風を発生させ、砂の動きや飛砂の量などを研究する装置

環境に適した作物作りへ研究

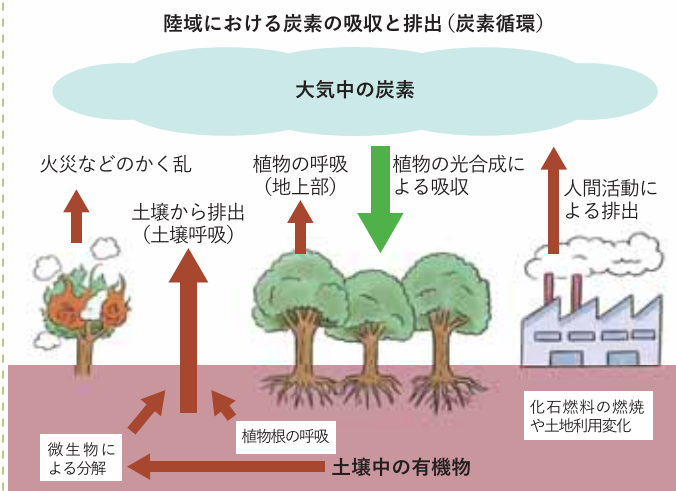
乾燥地農業領域 准教授 石井孝佳さん

現在、世界の主食はコメ、コムギ、トウモロコシで約9割を占める。しかし近年の気候変動で、これらの種の栽培が不安定になる可能性が高い。そこで准教授・石井孝佳さんは、未利用作物の開拓や交雑による遺伝資源の拡大、作物の改良時間を短縮する技術の開発など、細胞遺伝学の視点から研究を行っている。例えば、作物の改良は一般的に交雑から始まるが、種が遠縁だと受精したとしても、細胞分裂の途中で染色体が脱落できれば、その地の環境により適した作物を作れる可能性があり、将来の持続可能な農業に役立てたい思いで励んでいる。



イネ科亜科間交雑での染色体脱落

交雑によってコムギにパールミレットの高温・乾燥耐性などの性質を持たせたいが、途中でパールミレットの染色体が脱落してしまう。一方コムギに似た種のエンバクと交雑すると、脱落は起こらず、途中で枯死するが雑種植物を作ることができた



土の呼吸を知り気候変動対策へ

砂漠化対処領域 助教 寺本宗正さん

「土壌呼吸」とは、植物の根の呼吸や、枯葉・枝・枯死根などを微生物が分解することによって、二酸化炭素が土壌から大気中に排出されること。その全陸域からの排出量は、最大で人為起源によるものの約10倍にも相当する。気候変動への対策として、土壌呼吸を含む温室効果ガスの吸収や、排出に関する動態の解明と将来予測が求められる。そのためには、世界各地で温室効果ガスの吸収や排出に関する観測を行い、異なる生態系から得られたデータの積み上げが必要だ。これまでの研究では乾燥地のデータが不足しており、助教・寺本宗正さんは、乾燥地に赴いて観測研究に取り組んでいる。



鳥取砂丘発！世界と連携する乾燥地研究の拠点

世界の陸地面積の約40%を占める乾燥地。その10~20%が砂漠化しており、食糧危機や黄砂の発生などの課題を抱える。影響は日本においても深刻で、その解決に向けて組織的に取り組むのが、鳥取大学乾燥地研究センターだ。世界の研究機関と連携し、国内外で共同研究や人材育成を行っている。

鳥取大学乾燥地研究センター

砂防垣の設置 人工砂丘を作る堆砂垣とその風下に静砂垣を設置し、砂丘を固定。そこにクロマツを植林する作業



堆砂垣

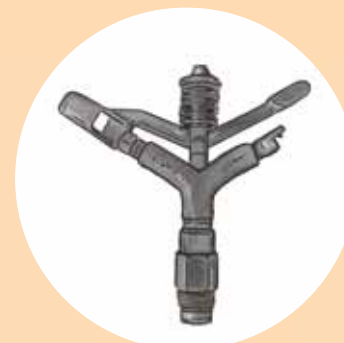
静砂垣

砂丘研究の知恵と技術を生かす

始まりは「風が吹けば飛砂が飛ぶ不毛の地」と言われた広大な鳥取砂丘を農地に変える研究。1923年に鳥取大学農学部の前身、鳥取高等農業学校が担った。まず砂の動きを止める砂防垣など、砂丘固定・砂防造林技術を確認し、作物が定着できる環境を整えた。続いてラッキョウ、ナガイモ、ブドウなど砂丘に適した作物を開発、その成果は全国の砂丘地に応用された。さらに乾燥地研究センター（当時の砂丘利用研究施設）で開発された国産第1号スプリンクラー灌漑システムは、厳しい水やり作業から人々を解放した。70年代に入るとアフリカのサヘル地域で干ばつが発生し、砂漠化の問題が浮上。これに砂丘研究の知恵と技術を生かすべく、海外の乾燥地に着目。現在、国内外で連携する乾燥地科学研究の拠点となっている。

かん水桶での水やり

底に穴が開いた桶に、棒で栓をしながらか水を運び、栓を外して走りながら水をまく。当時は女性がまかない、「嫁殺し」と呼ばれたほどのきつい作業だった



国産第1号スプリンクラー (自動回転式散水器)

鳥取大学と日ノ丸金属工業株式会社との産学連携により国産第1号機を製造 (1955年)



乾燥地 (ウズベキスタン) での土壌調査

研究のあゆみ 100年

- 1923年 鳥取高等農業学校 (現鳥取大学農学部) に湖山砂丘試験地が設けられ、砂防造林の研究開始
- 1949年 鳥取大学発足、浜坂砂丘の旧陸軍用地において砂丘地の農業利用の研究開始
- 1955年 浜坂砂丘試験地の用地115.5haが大蔵省から所管換え
- 1958年 農学部附属砂丘利用研究施設の設置を文部省が認可、農学部門発足
- 1963-74年 砂丘生産利用、砂丘環境、水文灌漑、乾地生態の4部門設置
- 1978年 乾燥地研究について他大学教官との共同研究開始。アリドロン実験棟完成
- 1990年 乾燥地研究センターに改組。全国共同利用施設となる
- 1998年 アリドーム実験施設完成
- 1999年 総合的砂漠化対処部門設置
- 2000年 国際共同研究棟完成
- 2009年 共同利用・共同研究拠点として認定
- 2010年 インターナショナル・アリド・ラボ完成
- 2015年 国際乾燥地研究教育機構設置
- 2016年 総合的砂漠化対処、環境保全、農業生産の3部門に改組
- 2022年 砂漠化対処領域、乾燥地農業領域、気候変動対応領域の3領域に改組
- 2024年 国際乾燥地研究教育機構と乾燥地研究センターを統合改組

VOL.17



問 鳥取大学 国際乾燥地研究教育機構
所 鳥取市浜坂1390
☎ 0857-23-3411
Web



文・イラスト/渡部紘巳 (わたなべ・ひろみ) 納豆が大好きなイラストレーター。1982年生まれ、鳥取県育ち。づるづるした食べ物が好きなおことから、屋号は「スタジオづるり」。



ここにこの
Human
Life 人

青木 弘

戦場フォトグラファー

Aoki
Hiroshi

「東京に出て大物になる」——
夜行バスに飛び乗って上京し、いつしか目標は海外に。
現在、カメラを片手に紛争地を歩き、
戦場フォトグラファーとして活躍する青木弘さん。
熱い思いと臆せぬ行動力で、
常に新しい目標に向かって歩み続けている。

文／船越 玲子 写真／絹見 誠司

『青谷かみじち』(ステンレス、84×115×34cm、2024年)★



シンプルで心和む造形 金工 森保樹

工作所の事務所は、アート感覚のランプシェードやペン立てなど、オリジナルデザインのステンレスがずらり。一級熱絶縁施工技能士・森保樹さんは、金属の扱いに熟知しており、バリアフリーの手すりなど建築関係の製造設置が本業だが、耐食・耐熱・強度に優れた素材を用いて制作する金工作家でもある。

ステンレスの『青谷かみじち』は、全国でも注目される地元「青谷上寺地遺跡」の出土品に発想を得た。約2000年前の弥生時代、木片に描かれた動物を、羊と鳥の合体に置き換えたのである。銀色に輝く新しい美意識は、さながら「現代の靈獣」と言えようか。

鉄材の『青谷獅子岩』は少年時代、山陰海岸で一段ずつ高く上った飛び込み用の岩がヒントだ。ジグザクの階段で荒波に浸食された岸壁と、群青の着色で清浄な日本海を表し、簡潔な立体の中にも、波動の揺らぎと大海原の奥行きまで形象化した。

題名から推測される通り、森さんの作品は郷土愛に満ちている。「地域の魅力をアートで、全国へ発信したい」とか。その信条は「まじめに考え、制作して、最後は遊び心です」。語る通りシンプルでシャープな作品は、心和やかなユーモアも併せ持っている。

もり・やすき
1969年生まれ。2010年、40歳で独立し森工作所を創業。13年、44歳で京都造形芸術大学(現:京都芸術大学)に入学、仕事を続けながら通い、ステンレスに関わる特許を取得する。23年、24年に国展彫刻部入選。



『青谷獅子岩』(鉄、110×43×43cm、2023年)★

文／角秋勝治
写真／田中良子



臆せぬ行動力で写真の道へ



あおき・ひろし
1976年生まれ。鳥取県智頭町で育つ。1998年、写真家・武政義夫さんに師事。イギリス留学を経て、2002年からフリーランスのフォトグラファーに。07年「さがみはら写真新人奨励賞」受賞。08年、青木弘写真事務所を設立し、19年に平和支援プロジェクト「PEACEis」の活動を開始。23年には鳥取で初の写真展「Elephant in the room ~中央アフリカ共和国のいま~」を開いた。



Web



中央アフリカ共和国をテーマにした青木さんの写真集『HEAL AFRICA』(2012年7月発行)『樹平線 juheisen』(2020年3月発行)

目標もなく勢いで上京

1年の約半分を戦地で過ごす青木さんは、2019年から持続可能な平和支援プロジェクト「PEACEis」を主宰する。2020年には中央アフリカ共和国をテーマにした作品集『樹平線』を上梓。アフリカを愛し、アフリカに愛された男として講演会やテレビ、ラジオ他メディアで積極的に活動している。

鳥取県智頭町出身。岡山との県境に近い、冬には雪に閉ざされる

小さな集落に生まれ育った。鳥取市内に一人で出かけるのすら不安だったという少年時代。にもかかわらず、「東京に出て大物になる!」と決心し、高校卒業と同時に上京。この先、何をしたいのかわからないままの旅立ちだった。

東京には友人も頼る当てもなく、最初の生活は新聞配達店の狭い個室。深夜バスで到着し、その足で見つけたアルバイト先だった。早朝から働き、がむしゃらにお金を貯める日々の中で、いつしか漠然と「海外で仕事がしたい」

との気持ちが芽生える。「その頃は乗馬が好きで、よく、オリンピックを目指そう!と。有名な乗馬クラブに誘われたこともあったけど、鞆帯のケガなどで結局、断念しました」

そこで新たな方向性を模索し、紆余曲折の末、辿り着いたのがカメラマンだった。「アート好きで美術館によく行ってたので、ふと芸術の分野もいいなとひらめいて。絵を描くのは無理でも、カメラなら押すだけだな、という安易な思いつきでした」

大胆な行動で写真の道へ

さっそく持ち前のフットワークの軽さで行動に移す。写真事務所にしらみつぶしに電話をかけ、門を叩いた。カメラも持たない経験ゼロの状態、なかなかの大胆さだ。ほぼ前払いのなか、恩師となる写真家・武政義夫さんと出会う。無給だったが、厳しくも温かい師の仕事に触れ、背中越しにカメラの技術を学んだ。

平和目指す支援、紛争地で展開

25歳の時、「世界に出るためには、まず英語だ!」と思いつき、語学留学でロンドンへ。すでに「戦場を撮影する」と心に決めていたからだ。戦場に赴くことが怖いとは、さほど感じていなかったという。

「地元を飛び出してから、生きていく道はすべて自分で取捨選択し、知らない場所に飛び込み、それぞれの場で受け入れてもらえてきたから。戦場という高いハードルを乗り越えれば、さらに自分に引き出しが増えてもっと強くなれるはず、という自信がありました」

自立につながる支援を

最初に訪れた戦地はパレスチナ自治区。続いて中東、アフリカの紛争地を歴訪し、現地の今を撮り続けてきた。その中でも特に思い入れが強く、ここ数年の間、足しげく訪れているのが中央アフリカ共和国だ。長年、内紛が続くこの地では農業も畜産業も立ち行かず、輸入に頼る部分が多い。そこで、現地に初の本格的養鶏場をつくる活動を「PEACEis」の柱とした。

最初に訪れた戦地はパレスチナ自治区。続いて中東、アフリカの紛争地を歴訪し、現地の今を撮り続けてきた。その中でも特に思い入れが強く、ここ数年の間、足しげく訪れているのが中央アフリカ共和国だ。長年、内紛が続くこの地では農業も畜産業も立ち行かず、輸入に頼る部分が多い。そこで、現地に初の本格的養鶏場をつくる活動を「PEACEis」の柱とした。

学校などの箱物を作っても、数年後には荒廃したり、武装組織のアジトになってしまったりすることもあるからだ。

「内紛の根本は貧困にある。一過性の支援ではなく、ここに住む人々自らが経営に参加し、継続的に価値を生み出すという、自立につながる仕組みを構築したい」宗教的対立とダイヤモンド鉱山をめぐる利権とが複雑に絡み合うこの国では、撮影も活動も常に危険と背中合わせ。それでも青木さんは諦めず、「争いのない未来」を目指して、この先も挑み続ける。

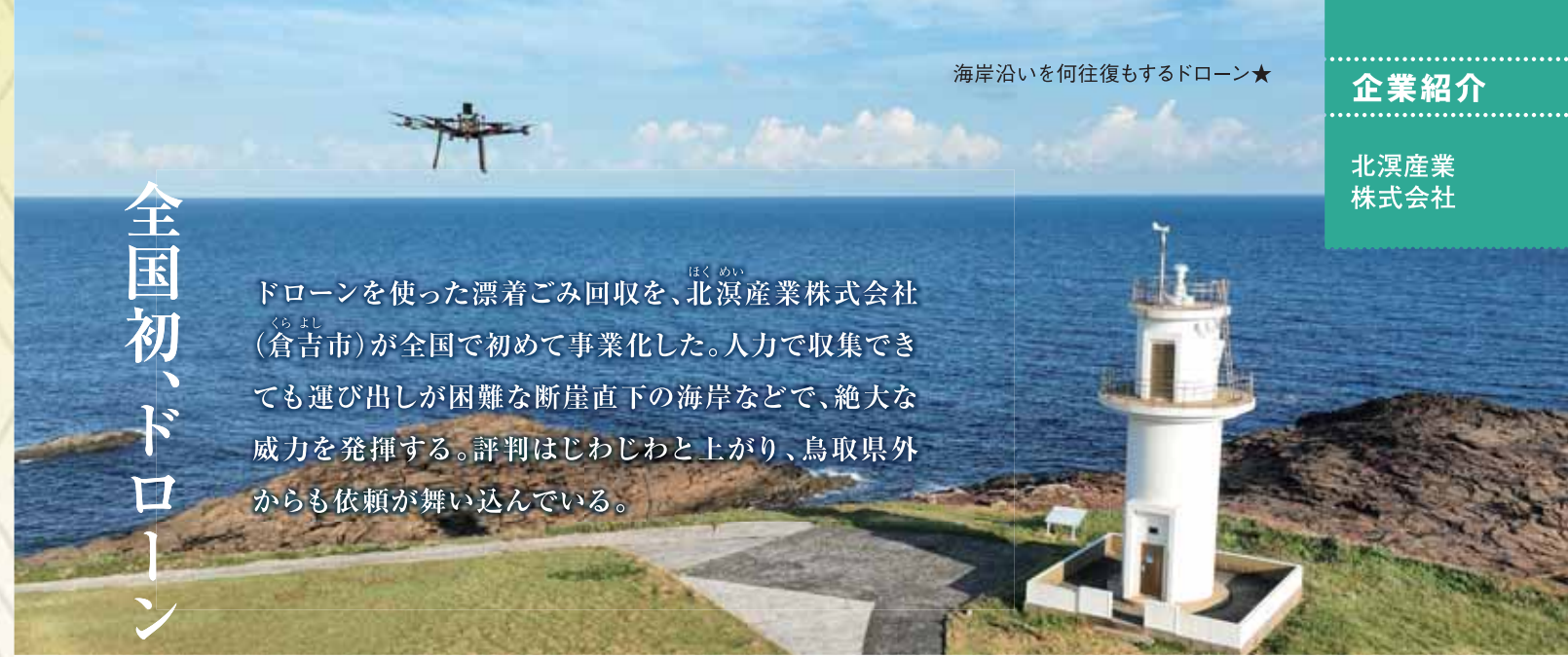


「PEACEis」のメイン事業として進めている養鶏プロジェクト。背後は完成した養鶏施設★

★写真提供：青木弘

大けがをした少年(パレスチナ)ほか、ダイヤモンド鉱山での採掘、暮らしの中にある笑顔(中央アフリカ共和国)など...青木さんは、人々のありのままの日常を今も現地で撮り続ける★





ドローンを使った漂着ごみ回収を、北溟産業株式会社(倉吉市)が全国で初めて事業化した。人力で収集できても運び出しが困難な断崖直下の海岸などで、絶大な威力を発揮する。評判はじわじわと上がり、鳥取県外からも依頼が舞い込んでいる。

全国初、ドローンで漂着ごみ回収

大型の運搬袋をつり下げた直径2メートルほどのドローンが、断崖下の海岸から対岸に設置した基地までの約300メートルを何度も飛行した。袋に詰め込まれたのは発泡スチロール製漁具などの漂着ごみで、重さは約15キログラム。強い海風を受けながらも機体は30〜50メートルの高度を保ち、ぶれずに安定している。

2024年9月、五島列島の宇久島(長崎県)で行った漂着ごみ回収の様子だ。初日は海岸と基地間を20往復して、約300キログラムのごみを運搬。翌日にも、近くの別の海岸で約600キログラムを運んだ。

「サルベージドローン」と命名されたこの事業は、20年11月、湯梨



「ドローンの使用によって大幅に漂着ごみ回収の効率が上がった」と中川さん

北溟産業株式会社

代表 / 中川 優広
設立 / 1980年12月
資本金 / 300万円
〒倉吉市岡20-10
☎ 0858-28-5782



Web

が完成した。

以来、今日まで5件の業務にドローンを投入し、実績を積み重ねてきた。中川さんは、開発のきっかけとなった海岸清掃業務について、「ドローンを使えば3日でできただろう」と断言した。

廃棄物回収のほか、園芸培養土や緑化基盤材の製造・販売などを手広く事業展開する会社にとって、この事業のウエイトはまだ小さい。しかし、中川さんは「漂着ごみ回収のニーズは高まっているので、今後、間違いなく拡大する」と、将来を見据えている。

文/松田則章 写真/山田真実



試行錯誤を繰り返し、2022年に完成した特注のドローン。15kg程度の重量に耐えられ、強風にも強い。写真左は海岸の漂着ごみ★



緑をイメージしたもので、故郷への愛情がこもる。

肉の表面だけをあぶり、柚子胡椒というただ胸肉のたたきは、しっとりながら弾力があり、コクあるうま味がじんわり口に広がる。親子丼は、開店以来の人気メニュー。ジューシーでふっくらしたササミ肉が、溶き卵と深みがある鶏ガラだしと絡まり、より味の豊かさを醸す。

他にも中華そばやモモ肉のたたき、揚げ物も好評で、地元の常連客や家族連れのほか少し離れた米子市からの来客も。「県内で生の鶏肉を食べられる場所は少なく、鶏肉料理の奥深い魅力を知ってほしい」と腕を振るう。

文/倉恒 弘美 写真/佐野 明美

秀峰・大山の麓で育った「大山どり」のバリエーション豊富な料理が堪能できる「あおみどり」(境港市)。店主の山本泰平さんは、毎朝、その日絞めた丸鶏を仕入れて自家解体し、余すことなく利用する。鶏肉は処理後、すぐに熟成や腐敗が進むため、安全に刺身やたたきで食べられるのは、新鮮さと高い調理技術の証だ。

料理研究家の祖母をルーツに持つ。大学時代のアルバイトをきっかけに食に興味を持ち、東京のイタリア料理店や地元和食店で経験を積んだ。その後、食鳥処理衛生管理者の資格を取得し2022年8月、店を構えた。店名は、境港から望む美保湾の青い輝きや、大山の深い



バリエーション豊富な鶏料理

鳥取のうま味

生で味わえる新鮮さ

奥深い魅力を堪能

表面をあぶった胸肉のたたき「むね柚子胡椒」(550円:税込)は、好みのあぶり加減に調整も可能。ランチ限定の「親子丼定食」はサラダ、みそ汁付き(880円:税込)。

あおみどり

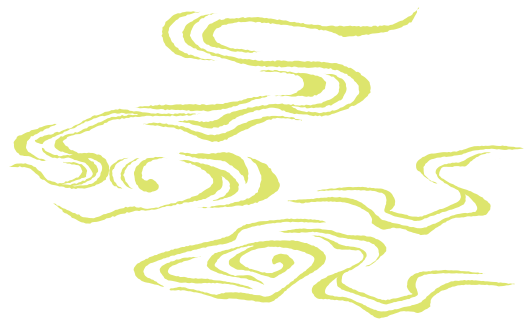
〒鳥取県境港市元町29-2
☎ 0859-46-0444
営業 火~金曜
昼: 11時~13時30分 (L.O.)
月~土曜
夜: 17時30分~21時 (L.O.)
休日 日曜



Instagram



移住が転機、人生切り開く 仏性たたえる自然が力



「この場所にたどりついて、仏画の制作にとっても集中できるようになりました」と笑顔で話す荒木さん



仏絵師(江府町)

荒木Juro香珠さん 島根県出身

- ◎移住前の住まい/米子市
- ◎移住時期/2019年
- ◎現在の仕事/仏絵師



Web



Instagram

年を追うごとに制作は、多忙を極めていく。24年はB5判ノートほどのサイズの小品から、縦1メートルを超える大作まで計8作品を制作し、個展や寺院の展覧会などに出席。インドのギャラリーで展示したり、フランスのアート雑誌で紹介されたりと、評判は海を渡り、活躍の幅も広がった。25年もフランス・パリのアート博などへの出品を予定している。

「近年の作品はすべて江府町の自然から生まれたもの。絵を見る人に神仏の存在を感じてもらい、少しでも生きる力になれたらうれしい」

導かれるようにたどりついた安住の地で、荒木さんは精力的に描き続けていく。



江府町内で開いた個展(2024年11月)

江府町への道すがら、目に飛び込んできた
の
日野川の流が仏画の題材「龍」に見えた。

仏縁に導かれたかのような移住が、
人生を切り開く転機となった荒木Juro香珠さん。
天平時代の文様を施した特徴ある仏画が、
国内外で光を浴び始めた。

From Yonago



輝くIJUターン者たち

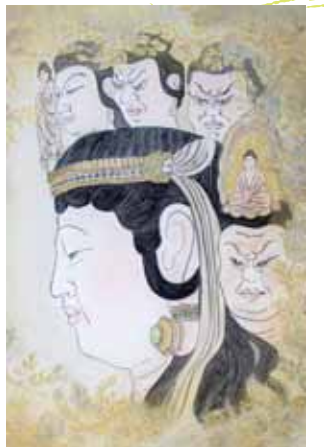
文/松田 則章 写真/佐野 明美

天平文様に心ひかれ

米子市で信心深い祖母に育てられた。その影響か、山川草木の中に仏性(※)を感じるような子どもだった。16歳のときに北栄町在住の彫刻家の門をたたき、美術の基礎を学んだ。大学に進んだものの、家庭の事情でやむなく中退。その後、奈良県の秋篠寺で見た仏像に感動し、仏絵師の道志した。

美術的に大きな衝撃を受けたのが正倉院(奈良県)の文物。そこに描かれた花や鳥などの自然を題材とした天平文様に心ひかれ、日本人の精神性に合致する美と感じた。

その美を今、仏画の中に描いている。菩薩や観音、龍など仏教に関する題材を緻密な線で描き出し、衣や光背に天平文様を施す。こうして生まれた作品は繊細かつ神秘的。「仏画の制作は自分にとっての『修行』」。



荒木さんが手掛けた仏画の数々



海外を意識した「Juro」

仏様の御心や教えを、筆や顔料、紙を通じて具現化するのが私の役目です」と、仏絵師としての矜持をみせる。

画業を着実に重ねていく一方、長らく悩みの種だったのが制作拠点だった。しつくり来る場所を求めて大山町や米子市など引越を重ね、6年前に江府町の古民家へ移り住む。



※仏性=すべての生き物が持っている仏となれる性質

「ここでは空に見守ってもらい、川の水や山、鳥のさえずりに仏性を感じる。夜中に家の周りを歩いて暗闇を体感し、その対比として希望である光を見いだします。環境すべてが作品を描く素材になっている」

2023年には雅号を改め、名字のあとのミドルネーム「十郎」を「Juro」とアルファベット表記に。十郎は先祖に由来する名前だが、海外での活動も意識しての変更だった。

【I・J・Uターンの相談窓口】

公益財団法人
ふるさと鳥取県定住機構
☎ 0120-841-558

とっとり移住定住ポータルサイト「鳥取来暮」▶



巻頭特集の「お魚天国」を読み、改めて美しい海の恵みと感謝しました。「きりり匠人」の職人さんの仕事ぶりには感銘。土鈴は一生物にしたい。
(鳥取県八頭町 田村 智也子)

特集の相撲部女子たちの鍛えられた筋肉に目がくぎ付け。たくましく頼もしいですね。
(大阪府松原市 川内 一子)

「トットリLIFE」の山内さん、何歳になっても挑戦出来る情熱はすばらしい。何より笑顔が輝いています。
(鳥根県出雲市 林 富士夫)

「この人」で読んだ温熱療法を初めて知りました。じんわりと効果がありそう。施術を受けてみたいです。
(鳥取県境港市 青野 亮子)

「鳥取二十景」を代表作に
表紙イラスト 池平 徹兵

5年をかけて1つの作品を制作する機会は、人生でそう多くはありません。この貴重なチャンスを最大限に生かすため、私は「続けること」を目的とせず、5年を費やさなければ生まれない作品を目指しました。表紙絵の連作は、葛飾北斎の「富嶽三十六景」に倣い、「鳥取二十景」として自らの代表作とする覚悟で取り組みました。

各号において、今の自分が出せる限界の力を注ぎ、一発で中心を射抜く最高の矢を放つことを心掛ける一方で、毎号異なる角度から中心を狙う挑戦を続けました。得意な角度からの矢はすぐに尽き、その後は未経験の角度から挑む日々が続きました。それは、アーティストとして成長を止めることを許されない、かけがえのない5年間でした。

この連作が世界へと届き、鳥取が国際的な注目を集める場所となるよう、これからも努力を続けて恩返ししていきます。毎号楽しみにして下さった関係者の皆さま、読者の皆さまに心から感謝申し上げます。

※池平徹兵さんの表紙イラストは、今回で終了します

■ 応募方法

下記の項目を記入し、ハガキ、電子メールまたはWebの専用応募フォームでご応募ください。

- ① 希望の商品記号または商品名
- ② 掲載記事への意見・感想
- ③ 応募用クイズの答え
- ④ 住所・氏名・年齢・電話番号

※②の感想が次号の「voice」に掲載される場合、住所・氏名が明記されることをご了承ください。また商品の当選は、発送をもって発表に代えさせていただきます。

※お預かりした個人情報は、プレゼント発送以外の目的に使用することはありません。



● 応募用クイズ ●

Q 1333年、隠岐から脱出した後醍醐天皇を船上山へと導いた伯耆国の武将の名前は?空いた□に当てはまる漢字を記入してください。

□ 和 □ □ □

144号のクイズの答えは「とろはた」

■ 応募先

〒680-8570 鳥取市東町1丁目220
鳥取県広報連絡協議会(鳥取県庁内)
「とっとりNOW読者プレゼント」係
メールアドレス: now@kouhouren.jp

応募バ切
2025.
3/31
消印有効



ふろしきまんじゅう

(20個入) 【3名】

和三盆の優しく豊かな風味が香る生地と、程よい甘さのこし餡がバランス良く、マッチする。明治元年に創業して以来、老若男女問わず、今も愛され続ける飽きのこない味。

問 有限会社 山本おたふく堂本店
☎ 0858-53-2345

スワンセラッキョウ漬け (1個) 【3名】

栄養豊富な鳥取県の名産ラッキョウを、独自の配合で味付けした「プレーン・柚子味噌・ハニー檸檬」の3種類。ローズマリーやユズ、ハチミツなどが香り、食欲をそそる。
※種類は選べません

問 株式会社 シセイ堂デザイン
URL <https://swance.jp/>

B



プレーン80g/柚子味噌130g/ハニー檸檬80g



砂丘ごぼう (23g×2パック) 【3名】

生のごぼうを皮つきのままカットし、アク抜き後そのまま乾燥させた。ごぼう本来の風味と食感が特徴。炊き込みご飯、豚汁、きんぴら、かき揚げなど幅広い料理に使える。

問 鳥取廣信青果有限公司
☎ 0857-26-2321

Editor's note □ ■ 編集後記 ■ □

船上山に後醍醐天皇の縁があることは知っていたが、取材前に彼の功績を改めて調べてみた。□「鎌倉幕府大嫌い、ぶっつぶす!」が彼の長年の悲願であり、何度も謀反を企む。優秀な部下、の貢献により、ついに自身がトップとなり、いざスタートした「建武の新政」。だが、これがあまりにもグダグダだったらしく…。武家・公家共に信用をなくして政治腐敗を招き、またたく間に崩壊の道へ。

自己顕示欲で、実際の中身が伴わなかった結果かもしれない。現代にも通じる「あるある」だ。□なのに。船上山頂上には、どどーんと立つ顕彰碑。どうやってこの巨石を運んできた!?今の技術を駆使しても相当困難だろう。地元有志の熱い崇拝におののく。後醍醐さんがいたのは、ほんの80日だけ。何ゆえそこまで?うーん…。□そうか、きっと「押し」なんだ!と腕に落ちた。そういえば推して`神、ともいう。なるほど、押し活は時代を超えている。 【Hi】

〈企画・編集・発行〉鳥取県広報連絡協議会
〒680-8570 鳥取市東町1丁目220(鳥取県庁内)

〈制作〉株式会社シセイ堂デザイン
〒680-0841 鳥取市吉方温泉3-802 TEL.0857-22-1122

☎ 0857-26-7086

☎ 0857-29-6621

『とっとりNOW』はWebでも見られます。
また、Web限定のコラム「すべての道は鳥取に通ず」「菌活で広がるきのこの世界」「満ぶくよくぱりグルメ皿」も連載中。

